

# 令和4年度 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和4年10月12日（水）午後2時～午後3時40分

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者	荒尾市長	浅田 敏彦
	荒尾市教育長	浦部 眞
	荒尾市教育委員	旭田 國浩
	荒尾市教育委員	渡邊 義専
	荒尾市教育委員	深浦 淳美
	荒尾市教育委員	谷本 ひとみ
(オブザーバー)	副市長	田上 稔
(事務局職員)	総務部長	石川 陽一
	文化企画課長	中山 創
	総合政策課長	末永 淳一
	総合政策課政策推進室長	林田 真司
	総合政策課政策推進室	伊藤 信也
	教育審議員兼学校教育課長	村上 豊優
	教育次長兼教育振興課長	橋本 張幸
	学校教育課指導主事	池田 祐樹
	学校教育課指導主事	村上 弦大
	学校教育課指導主事	米村 光生
	生涯学習課長	宮脇 浩司
	教育振興課教育政策係長	田中 彰

4. 傍聴者 無し

## 5. 議事

- (1) 活力ある学校づくりについて
- (2) 学校施設の現状と施設の長寿命化について
- (3) 教育施策全般に関する意見交換

## 6. 議事経過の概要

以下のとおり

### ○議事経過の概要

#### 1. 開会

末永総合政策課長が、開会の宣言、配付資料の確認を行った。

## 2. 市長挨拶

浅田市長が、挨拶を行った。

### ＜挨拶要旨＞

- ・今夏は、新型コロナウイルス感染症の第7波が猛威を奮い、教育現場におられる先生方には、子どもたちの学びの保障のために、大変なご苦労をかけた。改めて感謝申し上げる。
- ・これから冬本番を迎え、再び感染者数が増加することも懸念されるため、引き続き基本的な感染対策を講じつつ、LTE通信のタブレットを活用したオンライン授業等も併用してもらえればと思う。
- ・昨年度は、委員の皆様のご協力を得て、教育の基本的な方針となる教育大綱を策定することができた。大変お世話になった。
- ・先程、嬉しいニュースがあった。一小校区元気づくり委員会主催で開催した「音と光の祭典」において、荒尾第一小学校の児童が戦争で苦しむウクライナの人々のために募金活動を行い、その寄附金を市長室まで届けに来てくれた。郷土を想う気持ちに加え、人の立場を理解することの大切さを感じ取れる子どもたちが育っていることに感激したところである。
- ・本日は、積極的な意見交換を行いたいと思うので、委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。

## 3. 総合教育会議について

参考資料1及び参考資料2に基づき、昨年度策定した「荒尾市教育大綱・第2期荒尾市教育振興基本計画」の概要及び本市の人口ビジョンの進捗状況を確認した上で、本日の総合教育会議の役割について、林田政策推進室長が説明した。特に質疑等はなかった。

## 4. 議事

### (1) 活力ある学校づくりについて

資料1に基づき、平成18年度から平成29年度までに実施した「荒尾市学校規模適正化計画」の全体評価と教育委員会としての今後の対応方針について、浦部教育長が説明を行った。

### ＜主な意見等＞

深浦委員

府本小学校は、今後複式学級になる可能性がある。小規模校の場合、人間関係が良好なら良いが、一旦関係が崩れると不登校等にもつながる。小規模特認校が複数あれば、学校を選択することができると思う。

旭田委員	荒尾市では、オンリーワンの学校づくりを推進されているが、府本小学校も魅力ある学校運営をされていると感じる。金山地区は、最近新築の家が増えており、やり方次第では今後人口が増えていくのではないかと感じる。
浅田市長	府本小学校では、「ふもとマルシェ」を開催し、子どもたちが自ら商品を考えて、売るところまで一貫して行われていた。市役所でも、まず課題があって、その対策を考える。それを子どもたちが体現していることに対し、感心しているところである。また、10月12日には、荒尾長洲線野原バイパスが開通する。人の流れが変わればと考えている。市としても、人口減少対策として、空家・空地対策に力を入れており、移住希望者に対し、府本地区をモデル地区として、物件等を紹介していくという方針を決定している。これにより、府本小学校の子どもが増えれば良いと考えているが、小規模校であっても、ICT等を活用しながら、最大限デメリットを解消していきたいと考えている。
浦部教育長	「ふもとマルシェ」は、ここ数年コロナ禍で開催できなかったが、現在、府本小学校では、オンリーワンの学校づくりを目指して、「地域の特性を活かした本物体験学習」をテーマに掲げており、地域の方々と一緒になって、野菜やお茶を栽培し、収穫まで行っている。
渡邊委員	現在、各地区には地区協議会があって、そのメンバーが地域を支えている。万田小学校の開校に伴い、1つの小学校区に2つの地区協議会が存在することとなり、運営がうまく回っていないと思うことがある。先日、府本小学校の学校訪問に行ったが、小規模校だからうまく回っていないということではなかった。むしろ、先生の目が行き届き、全校児童がタブレットのローマ字入力ができるなど、理想の学校だと思った。
谷本委員	私も府本小学校の学校訪問に行ったが、活力があって、地域の方々とふれあいも見られ、先生も児童もいきいきと学校生活を送っていた。学校間で互いの学校を見学すると、他校の良い部分が見えてくると思う。私も子どもがいるが、タブレットを使い切れていない。荒尾市全体が府本小学校ようになれば良いと思う。
浦部教育長	委員ご指摘のとおり、府本小学校や清里小学校などの小規模校は、地域の方々も熱心に活動されている場合が多い。
浅田市長	学校規模適正化について、少し補足させていただきたい。荒尾市で、学校規模適正化の話が持ち上がった発端は、市の財政難であったと思う。当時は、市の新規事業や職員採用もス

トップし、財政再建団体に転落しないことが最重要課題であった。幸いたくさんの方々の協力を得て、現在は財政状況も安定し、未来への投資ができるまでに回復した。教育現場では、ICT教育なども始まり、小規模校が必ずしもデメリットにならなくなった。今後も時代に合った新しい学校づくりを行うことで、少しずつ課題を解決していければと考えている。このように、当時と現在では学校規模適正化をめぐる環境が大きく変わったということを委員の皆様にもご理解いただきたい。

浦部教育長 平成30年度には、桜山小学校が熊本県教育委員会指定の「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト」研究推進校となった。現在のGIGAスクール構想の先取りとなり、新しい学校づくりにもつながっている。

浅田市長 桜山小学校の事例は、児童の学力向上がデータでもはっきりと出ており、ICT教育の成果を感じ取ることができた。

深浦委員 市の人口ビジョンを見ても、人口減少は避けられないと思うので、地域の特性を活かした上で、小規模特認校制度の導入を進めてもらいたい。

旭田委員 先日、荒尾第三中学校の学校訪問に行ったが、生徒数が500名を超える大規模校であったにも関わらず、多くの生徒が集中して授業を受けていて、先生も熱心に指導されていた。学校現場は教職員不足が深刻な問題であり、先生が休職した場合は、管理職が授業に入っている状況である。国や県の問題だとは思いますが、教職員の確保を頑張ってもらいたい。

渡邊委員 荒尾第三中学校の制服が令和5年度から新しくなる。生徒と保護者の発案で実現したと聞いており、先生方も理解を示してくれた。活力ある学校づくりの優良事例として、他校にも波及して欲しい。荒尾には、このように自主的に考え、行動できる生徒がたくさんいて素晴らしいと思う。

浅田市長 荒尾第三中学校は、生徒の不登校解消や未然防止のために設置している「ハートフルルーム」についても成果を挙げていると聞いており、嬉しく思う。

谷本委員 先日、土曜授業に関するアンケートがあった。現場の先生方は一生懸命頑張っておられるにも関わらず、時間的な余裕がないので、先生の働き方改革を進めていかなければならないと思う。給食もなく、習い事の予定も入れにくいなど、親としてもスケジュールの管理が難しい。あくまで個人的な考えだが、土曜授業は時代の流れに反すると思うので、廃止で良

	いと思う。
浦部教育長	土曜授業については、今後検証していきたい。
渡邊委員	学区の問題もあり、難しいと思うが、子どもと保護者が進学する学校を選択できたら良いと思う。人間関係で行き詰った時はもちろんのこと、各学校に特色があることから、自分に合った学校を選択できたら良いと思う。
浅田市長	先程、旭田委員からも話があったが、国や県に根本的な解決策を取ってもらうことで、教職員不足を解消し、先生という職業が働きがいのある職業として評価してもらえればと思う。ICT教育については、各家庭での学習にも波及させていくことで、自然と学力も向上していくと思うので、教育委員会の皆様にもご協力をお願いしたい。
浅田市長	最後に確認だが、学校規模適正化については、今回の総合教育会議において、教育委員会が考えるように、現行の学校体制（小学校10校、中学校3校）を当面維持し、小規模校のメリットを最大限活かした取組みを今後も推進していくという方針で、教育委員会の皆様と私の認識が一致したということによろしいか。
委員全員	異議なし。
浦部教育長	学校規模適正化の対応方針については、委員の皆様全員からご承諾をいただいたということで、引き続き地域とも連携しながら、魅力ある学校づくりを進めていく。

## （２）学校施設の現状と施設の長寿命化について

資料２に基づき、「学校施設バリアフリー化推進指針」を踏まえた「学校施設等長寿命化計画」の更新及び国が示す今後の学校施設の在り方について、浦部教育長が説明を行った。

### <主な意見等>

深浦委員	学校訪問で何校か校内を見学させてもらったが、電灯のLED化やエアコンの設置等の環境整備が進んでいる一方で、施設の老朽化も進んでいる。学校給食センター整備推進室が設置されたように、学校施設長寿命化推進室も設置して欲しい。
旭田委員	私は齢60を超えているが、自身が中学生だった頃と比べ

て、素晴らしい環境になったと感じている。電灯のLED化や手洗い設備の非接触化、給食センターも良くなり、市長に感謝したい。先日も清里小学校で外壁改修の工事が行われていた。財政状況が厳しい中で良く頑張っている。私も深浦委員同様に、学校施設長寿命化推進室の設置には賛成である。

浅田市長

小中学校長との意見交換会を毎年行っている。要望が多いのは、施設やトイレの改修等である。今年度から一級建築士の資格を持つ職員（再任用）を配置しており、活躍を期待している。また、本市では、来年度から県内で初めてとなる総合管理委託制度を導入予定である。これにより、今まで個別に管理していた公共施設を一括で管理することになり、費用面や運用面での効率化につながると考えている。学校施設についても、計画的に改修していきたい。

谷本委員

9月から新しい給食センターがスタートした。今までは全校を2ブロックに分け、2献立制であったが、建て替え後は全校統一の1献立制となり、メニューを考えやすくなったという現場の声を聞いている。また、麦ごはんを食べる機会の増加や、パンに使う小麦も国産、県産、北海道産にされるなど、随所に配慮が見られる。子どもたちに安全・安心な給食が提供され、大変嬉しく思っている。

### （3）教育施策全般に関する意見交換

今回の議事以外の教育施策について、意見交換を行った。

#### <主な意見等>

浅田市長

今年4月に市立図書館がオープンした。利用者と貸出冊数が順調に伸びているが、学校現場でも何か効果が見られるか。

渡邊委員

私の子どもも図書館に友達と勉強しに行くようになった。シティモールで軽食も取っているようだ。先日、全国学力調査の結果が発表され、熊本県はどの教科も全国平均を下回っていたが、今後、学力面での効果を期待したい。

深浦委員

図書館の学習室で勉強する若者が増えたなど感じている。図書館に行くと頑張っている姿が直接見えるから、周りにも良い影響が出るのではないかと思う。

浦部教育長

日曜日に開館と同時に図書館に行ったが、学習室の1番奥にある壁際の席は、集中しやすいからか、すぐに席が埋まっていた。図書館単体ではなく、商業施設の中にあることで、疲

れた時などに、一息つけるのは良いと思う。

渡邊委員 私は子どもたちの新しい居場所ができたことが良かったなと思う。昔は近所に駄菓子屋があって、そこが子どもたちの交流の場であったが、最近は少なくなっている。

浅田市長 私も先日図書館に行った時に、幅広い年代の方が楽しそうに会話をしているのが印象的だった。図書館内に多世代が交流できる場ができたのは良かったと思う。

谷本委員 図書館にテラスがあることは知らなかった。何か活用ができれば良いと思う。児童書コーナーに、座り心地の良い椅子があったが、危険だからという理由で撤去されたのが残念だ。図書館の活用方法としては、例えば、専門の保育士がいて、育児相談等ができれば、ニーズがあると思う。私の娘が住んでいる市町村では、荒尾市のようにおむつシールがない。例えば、里帰り出産で帰って来た産婦に、1、2か月分だけでもおむつシールを支給すれば、子育てしやすい街として、市のイメージアップにもつながるのではないかな。

浅田市長 学習スタジオの活用状況はいかがか。

浦部教育長 活用については、有明高専の先生との連携事業などを検討中であるが、もう少し準備が必要である。なお、学校司書の先生の研修会で使用したことはある。

浅田市長 子どもに1番身近な図書館は、学校の図書館であり、子ども未来基金で、定期的に図書も購入しているところである。今後、学校司書の先生と市立図書館司書の先生が連携し、より高いレベルのサービスを提供できるようになればと思う。

浦部教育長 学校との連携としては、団体貸出を行っており、小学校の国語の授業などで取り上げた作者の他の作品を、市立図書館から1校あたり74冊借りている。また、宮崎兄弟の電子漫画を全校生徒が同時にタブレットで閲覧できるように準備を進めている。今後は、児童生徒1人1人にIDを付与し、気軽に電子図書館を利用できるようにする予定である。

渡邊委員 学習スタジオについては、市長が直接情報発信をしたら盛り上がるのではないかなと思う。子どもたちは、市役所が何の仕事をしているのか良く分からないと思うので、生活に関わる大事な仕事をしているんだということを、タブレットを通じて伝えていただければと思う。

旭田委員 妻が大牟田市出身で、今まで荒尾市の図書館には行ったこと

がなかったが、移転後に3冊借りて来た。新図書館の影響は大きいと思う。

浦部教育長 10月10日現在の情報だが、オープンからの来館者数が約17万9千人、新規登録者が5千人から6千人の間（従来からの登録者と合わせると約2万5千人）となっている。年代別では、小学生、30代、40代、60代の利用が伸びている。学校からの図書館見学についても、7校から約430名の子どもたちに来館いただいております、南関町からの利用も1件ある。

田上副市長 本日の会議を大変興味深く聞かせていただいた。具体的な提案としても、土曜授業の見直しや学校の選択化、里帰り出産時のおむつシールの支給など、独特な視点でご指摘いただいたところであり、今後、教育委員会の中でも議論を深めていただければと期待している。本日の1番の成果は、市長と教育委員会との間で、学校規模適正化の共通認識が定まったことである。このたび、まずは教育委員会の方でご議論をいただき、当面は現行の学校体制（小学校10校、中学校3校）の維持を決定した上で、その教育的効果を高めるための具体的な案を示していただいたところである。本日の会議において、市長とも、その認識を共有することができたので、市としても、一定の意思決定が必要になってくるかと思う。今後も引き続き、市と教育委員会が連携し、学校統合の有無に関わらず、すべての子どもたちがより良い教育を受けられるよう、ソフトとハードの両面で、環境整備を進めていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

浦部教育長 本市が毎年実施しているまちづくりアンケートにおいて、荒尾市で子育てをしたいと思う市民の割合は、直近の結果で7割程度だが、若い世代の図書館の利用状況などを見ると、現状ではもっと上がっているのではないかと思う。教育委員会としても、市長が目指す「暮らしたいまち日本一」の実現に向けて、教育の面から支えていきたい。

## 5. その他

末永総合政策課長から、今後の総合教育会議については、その役割を踏まえ、教育大綱策定や緊急案件等がない年次は、年1回の開催に変更したい旨を提案したところ、委員全員から承認を得た。

### <主な意見等>

特になし。



## 6. 閉会

末永総合政策課長が、閉会の宣言をした。